

## 議事録

作井技術委員会 事務局

平成 25 年度 第 2 回運営幹事会

開催日時：平成 25 年 7 月 22 日（月）16:00～18:00

開催場所：国際石油開発帝石（株）応接室

出席者：池田、浦野、田村、石井、武村、原田、福嶋（直）、長縄、菅野（博）、古谷。

欠席者：佐藤、福嶋（睦）。

### 議題 1：平成 25 年度 春季講演会の総括

- 1) 学生優秀発表賞（生分解性樹脂 逸泥防止剤、早大）の原稿提出依頼  
→既に編集委員会から 9 月 2 日メ切で依頼済み。受信後、査読し、講評を作る。
- 2) 協会誌投稿促進のための個人講演評価結果と選出 (配布資料 1)  
→JAMSTEC の JFAST、国際帝石の 2 件、石油資源の MH セメンチング、JOGMEC の掘削シミュレータ、早大の引張圧縮安定解析と地層歪変化のパラメータ解析の計 7 件を選出し、7 月 25 日に推薦状を講演者に送付した。(7/26 JFAST は他でも講演を予定しているので辞退された) なお、評価シートは来年改善してよいか、次回の理事会で問い合わせることにした。
- 3) シンポジウム講演の協会誌掲載原稿の執筆依頼状況 (配布資料 2)  
→守秘義務上、掲載できない国際帝石と三井石開の 2 件を除く 7 件の講演者に対し、既に編集委員長と作井技術委員長の連名で 7 月 10 に執筆依頼済み。締め切り 8 月末。
- 4) 運営上の気づいた点（講演件数、時間配分、討論会など）  
→件数、時間とも問題なかった。2 回目の討論会の前に小休憩を入れて、座席を準備する。今回のシンポジウムは 2 ジャンルに分けられたので、2 回の討論会は効果的だった。来年はテーマ・講演内容によって、討論会か、パネルディスカッションか、使い分ける。

### 議題 2：各分科会活動報告

- 1) 大水深掘削技術分科会：古谷座長  
→仕事が一段落したので、近々に分科会を企画する。
- 2) HSQE 分科会：福嶋（睦）座長  
→進捗なし。

### 議題 3：作井技術委員会の平成 25 年度活動計画の審議

- 1) 要綱および活動方針（案） (配布資料 3、4)  
→要綱と活動方針がかなり重複しており、一本化してよいか協会に聞いたところ、他の委員会は活動方針のみということが判明。作井も一本化した活動方針（案）で承認された。なお、生産技術委員会の活動方針にある、年 2 回委員会を大学で開催し、学生に当

業界への興味を抱かせる各社事業紹介をする活動を、作井も実施できないか、検討することになった。

- 2) 運営幹事および委員の異動 (案) (配布資料 5)  
→ 転出した石油資源菅野幹事の後任は、検討中。アラ石は技術部門譲渡により、昨春から委員を選出しないことになった。テルナイトはウェザフォード代理店ではなくなったので、小川委員が復帰した。
- 3) 年間スケジュール (案) (配布資料 6)  
→ 秋季講演会は 10 月 31 日東大小柴ホールにて、次回春季講演会は平成 26 年 6 月 4～5 日に新潟市にて開催の予定。
- 4) 活動費予算 (案) (配布資料 7)  
→ 例年通りで問題なく、次回の作井技術委員会で承認を求めることにした。
- 5) 第一回作井技術委員会 (9 月予定) での特別講演依頼先の検討 (配布資料 8)  
→ 池田委員長より「東京スカイツリーが建造中に発生した東日本大震災でも倒れなかった技術」と「無事故で終了した赤坂プリンスホテル解体工法」が提案され、前者を選出した。
- 6) 異業種を含めた情報交換会 (案) (配布資料 9)  
→ 「他業種との情報交換」と「作井の世代間交流」の二つの目的があったが、先ず前者をやってみることにした。雑談だけでは情報共有しにくいので、機器・素材メーカー各社 5～10 分ずつ、パワポで「何が知りたいか」「なぜ知りたいか」についてプレゼンしてもらおう。参加会社が多いなら 15:30 開始、そうでなければ 16:00 開始とし、懇親会を設ける。8 月 21 日か 23 日で機器・素材メーカーに打診中。

#### 議題 4：報告事項

- 1) 理事会報告 (6 月 19 日開催)  
→ 秋季講演会のテーマは「資源国とどう向き合うか (仮題)」について紹介。
- 2) 80 周年記念出版委員会  
→ 発刊の遅れ (お詫び) を会告に掲載した。

以上